



県の統計サイトに、昨年11月発表の第65回県統計ラフコンクルの審査結果が掲載されている。応募総数は745件。10年前と比べて5倍以上だ。学習指導要領が統計教育の重視を打

の辺に位置するのかわか。それを過去と比べれば、成績が改善したのが悪化し、その「証拠」が統計だ。ところが、わが国の公的統計には課題が多いのが現状だ。代表的なマクロ統計である国内総生産(GDP)は、他の先進国に比べて速

に基く政策立案(EBP)が重視されている。M)が重視されている。変動(振れ)をならすなどの工夫を凝らすことだ。ヒアリングなどで、定性情報を補完することも有益だろう。

統計の改善には、予算制約や技術的な課題など困難が立ちほだか

統計を理解し、活用しよう 竹内 淳

ち出しておるだろう。統計は先行きを報発表が遅いうえに、事後当県でも、厳しい環境下で

り、小中学生 照らす「羅針盤」の機能も 的な修正が大きい。設備投 作業努力を積み重ねている

の応募が増えている。 果たすのだ。 資などの項目では、プラス 統計担当、多忙でも快く回

統計は、データを集めて 政府など公的部門が作成 ことすらある。 こうした状況下、ユーザ 敬意と感謝の念を抱きつ

つくれるもので、身近な するのが公的統計だ。最近 必要なのは、個々の統 計のクセやひずみを把握し

存在だ。例えば、テストの では、限られた資源の有効 計のクセやひずみを把握し (日本銀行甲府支店長)

平均点や偏差値という統計 活用のために、政策の効果 計のクセやひずみを把握し

を知れば、自分の成績がど を客観的に評価する「証拠